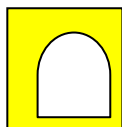


日吉台地下壕保存の会会報



第102号

日吉台地下壕保存の会

2011年度総会盛会裡に終了

震災から丁度3カ月の2011年6月11日(土)本会総会が行われました。これに先立って筑波大学付属高校の鈴木亨先生をお迎えして原子力についての基礎からの解説をしていただきました。時宜を得た演題に参加者も多く、分かりやすい講演にたくさんの質問が出て、時間も延長され、好評のうちに終了しました。

総会は滞りなく行われ、終了後の懇親会も和気あいあいのうちに終わりました。



講演 鈴木 亨氏

記

日時 : 2011年6月11日(土)13時～18時

場所 : 慶応義塾大学日吉キャンパス

藤山記念館2F大会議室

講演 : 13:00～15:45

「福島第一原子力発電所で何が起きたか
—基礎から読み解く原子力—

講師 鈴木亨氏(筑波大学付属高校物理科教諭)

総会 : 16:00～16:40

参加者 : 講演 54名、総会 32名

講演資料

福島第一原子力発電所で何がおきたか? —基礎から読み解く原子力

筑波大学附属高校物理科 鈴木 亨

1. 核物理の基礎の基礎

- すべての物質は原子でできている 直径 10^{-10}m のサイズ
- 原子の種類を決めるのは原子核 直径 10^{-15}m のサイズ 希に不安定で壊れるものがある
- 鉛より大きい→アルファ崩壊 陽子と中性子のバランスが悪い→ベータ崩壊
- 半減期 放射線を出して崩壊する確率が1/2

目次

| | |
|--|-------|
| 定時総会報告 | 1p |
| 総会講演資料福島第一原子力発電所で何が起きたか?—基礎から読み解く原子力— 鈴木亨氏 | 1～2p |
| 報告「正當に怖がる」山田譲 | 2～3p |
| 総会資料 | 3～7p |
| お知らせ 第15回戦争遺跡保存全国シンポジウム | |
| 神奈川県横浜大会 | 8～14p |
| 報告 大倉精神文化研究所と日吉台地下壕保存の会合同聞き取り 亀岡敦子 | 15p |
| お知らせ 会費納入 | 15p |
| 活動の記録 | 16p |

である時間 → 短いと激しく放射線を出す

2. 原子力発電の仕組みと事故のあらまし

- ・核分裂 $^{235}\text{U} + n \rightarrow \text{O} + \Delta + 3n + \text{エネルギー}$
— n (中性子)による連鎖反応を調節
- ・ O , Δ :核分裂生成物(死の灰!) ほとんどが半減期の短いベータ崩壊
- ・核爆弾は ^{235}U 100%の金属, 核燃料は同位対比3%の二酸化ウラン
- ・要するに蒸気タービンを回している
- ・100種類以上ある核分裂生成物の中で注目(警戒)する核種は限られる
- ・(1)そこそこ(数日~数十年)の半減期
(2)気化, 水溶しやすく環境に放出されやすい
(3)人体に取り込まれやすい
- ・ヨウ素, セシウム, ストロンチウム
- ・プルトニウムが怖い! ...と「今」騒いでいる人は半可通



放射線検出器で放射線(γ 線)を検出している鈴木氏

3. 放射線の量を理解する

- ・放射線は1個, 2個と数えられる → 1秒1個の割合を1Bq(ベクレル)
- ・1kgの物質が1Jのエネルギーを吸収すると1Gy→1Sv(シーベルト)
- ・1リットルの水なら0.00024℃の温度上昇?! 生体にはピンポイントで効く「弾丸」
- ・人体内にカリウム40が4,000Bq, 炭素14が2,500Bq
- ・世界平均2.4mSv/年=0.27 μ Sv/h
- ・ICRP(国際放射線防護委員会)勧告 一般公衆:1mSv/年 職業人 50mSv/年
- ・医療被曝には見合う利益がある 胸部X線0.05mSv, 胃X線0.6mSv, 胸部CT6mSv
- ・高いところは怖い! 10cmの高さは? 10mでは?
- ・100mSvで0.55%の発ガンの「増加」30~50%はもともと発ガンリスク
- ・体内に取り込まれた放射性物質から「内部被曝」
- ・セシウムの食品規制 500Bq/kg → 1.3×10^{-5} mSv/Bqで換算できる
- ・限度いっぱい食品100gを1年食べて→0.24mSv

報告

運営委員 山田譲

「正當に怖がる」

6月11日の定期総会に先立ち、福島原発事故にかかわる講演がありました。大震災・原発事故から3か月目のこの日、全国各地で「6.11 脱原発 100万人アクション」のデモ・パレードがとりくまれているなかで、タイムリーな企画だったとおもいます。参加者も50数名になり、質問がとても多かったのも今回の特徴でした。

鈴木さんは福島原発事故で大量に飛散した放射能とはどういうものなのかということを中心に話されました。小型の放射線測定器も持参され、実演していただきました。

講演ではまず「放射線は原子核分裂によって発生する。」「放射線にはアルファ線、ベータ線、ガンマ線があるが普通の線量計で測れるのはガンマ線」「放射線は1個2個と数えられる実体で、1秒間に何個の放射線を出すかというのがベクレルという単位」。またシーベルト(吸収線量あるいは被

曝線量)については、「レントゲン検査で0.05ミリシーベルト受けているのだからマイクロシーベルトのレベルなら問題ないという人がいるが、これはデタラメ。レントゲンのエックス線は毎日受けつづけるわけではないし、医療被曝は害があってもそれ以上の利益があるから受けている」「半減期が長いと怖いともいわれるが、半減期が長いものは核分裂がゆっくりなのであまり放射線を出さない。数日から数十年の半減期のヨウ素、セシウム、ストロンチウムなどがこわい。」などの話がありました。

質問の時間も話の区切りごとに3回もうけられ、20人近くの方から質問が出されました。いくつか紹介します。



Q:ラジウム温泉は放射線を出しているのですか?

A:ラジウムがラドンになって放射線を出しています。それが有害かどうかは何とも言えません。

Q:川崎(王禅寺)の武蔵工大の原子炉で放射能もれがあって廃炉になったというがどうなっているのですか?

A:原子炉は運転中よりも運転後の方がたいへんで、中性子線をうけて放射化してしまった炉を廃炉にして解体するのは簡単ではありません。

Q:毎日各地の放射線量が発表されているが、数値が下がらないのは放射能

が出続けているということですか?

A:福島事故以前と変わらないということです。今気をつけないといけないのは土壤汚染です。先日千葉の方に行って、雨どいの下の排水溝がないところに溜まっていた土をとってきたら、線量がとても高い。(線量計で実演)しかしこの土から1メートルもはなれると線量計は平常値になります。

お話を聞いて私自身の印象に残ったのは、寺田寅彦の言葉として紹介されていた「正当に怖がることはむづかしい」ということです。「科学では絶対とはいわない。絶対安全とか絶対危険とかいうのは科学ではない。」ともいわれていました。確かに科学的態度とはそういうものだとおもいます。他面で「原発爆発の第一報を聞いてコンビニに走った。家にこもれるようにしようとおもった。」とも言っておられ、災害対応としては冷静で科学的な判断を待っているわけにはいかないわけです。その場で最悪の事態を想定して主体的に行動するというのだとおもいました。

福島原発事故そのものの話はあまりありませんでしたが、今、福島現地や私たちのまわりに飛んできている放射能を「正当に怖がる」ための知識やヒントをいろいろ教えていただき、有益な時間を過ごせたとおもいます。こういう最悪の事故を二度とくりかえさないために、私たちはどうしたらいいのか、私たち自身の判断力をつけるための助けになったとおもいます。とはいえ話が話なので「やっぱりよくわからない」という声もありましたが、しかたありませんよね。

総会資料

○総会 16:00～16:45

総会次第

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 議長選出

4. 議事

- (1) 2010 年度活動報告
- (2) 2010 年度会計報告
- (3) 2010 年度会計監査報告
- (4) (1) (2) (3) の報告についての質疑応答及び承認
- (5) 2011 年度 会長・副会長・運営委員・会計監査の選出と承認
- (6) 2011 年度 活動方針案説明
- (7) 2011 年度 予算案説明
- (8) (6) (7) の活動方針案、予算案の質疑応答及び承認

5. その他

6. 議長解任

7. その他連絡事項

8. 閉会の辞

2010年度活動報告

2011年3月11日(金)14時46分長い地震の後、日本の様相は一変したが、其の時点では一変したことに気がついていなかった。帰宅難民を経験し、月曜日からの乗物の間引き運転の混乱、計画停電で本当に停電すると、被害の甚大さが身にしみた。地震や津波で原発や火力発電がやられたことに起因すると言うことが判明し、毎日、原発のニュースが流れて来るとその恐ろしさが増大していった。被災地から遠い横浜でこの有様では、被災地ではいかばかりかと被災された方々の悲しみやご苦労が思いやられて3ヶ月経った今でも、目の中が熱くなってくる。被災された方々にお見舞いを申し上げますと共に、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

6月26日2010年度三田史学会が三田キャンパス517番教室で開催され、シンポジウムでは報告①「軍令部第三部地下壕出入口の発掘調査成果」安藤広道氏、②「日吉台地下壕保存の会の活動」新井揆博氏、③「戦争遺跡研究の現状と課題」十菱駿武氏と三本の報告がなされ、コメント3では「アジア・太平洋戦争と慶應義塾」を都倉武之氏が発表された。日吉台地下壕が学術的にはじめて取りあげられ、論じられたことは画期的なことであった。

もうひとつの特記事項は「平成22年度かながわボランティア活動奨励賞」に輝いたこと。締め切り間際に申請し、応募40団体の中から5団体が選ばれ、その中の1団体となった。10年、20年と継続して活動している団体が選ばれているようで、当会の地道な活動が認められ、2011年3月18日県庁の知事応接室での表彰式では賞状と副賞をいただき、今後の活動に希望を見いだした次第である。

2010年度の総会は5月29日、藤山記念館大会議室で行われた。総会に先立ち第4回ガイド養成講座に参加された7名(出席4名)の方に終了書が手渡された。恒例の講演は「日吉台まむし谷(軍令部第三部等地下壕)の発掘調査と保存・活用の意義」と題して①発掘調査の成果報告を山田仁和氏が、②「保存活用の意義」を新井揆博氏が行った。引続き総会に移り議案が審議され可決された。慶應義塾で検討されている寄宿舍の改築計画、保存の会の平和ミュージアム構想、文化庁の戦跡調査等が話題になった。

6月19日～21日 第14回戦争遺跡保存全国シンポジウム「沖縄県南風原大会」(南風原町、戦争遺跡保存全国ネットワーク等主催)が南風原中央公民館ホールで開催された。テーマは「ヒトからモノへ～戦争遺跡の保存・活用、次世代への継承を考える～」。

第1分科会では「日吉台地下壕の保存と活用について」を亀岡敦子氏等が発表、第3分科会では石橋星志氏が「戦争遺跡と平和博物館を平和ガイドでつなぐ」を発表。見学会は20日閉会集会のあと「沖縄陸軍病院南風原壕」を巡り、翌21日予定された13のコースに別れ、それぞれの遺跡めぐりに向った。

第15回2011年大会は神奈川県横浜大会として8月6～8日慶大日吉キャンパスで開催される。それを

受けて戦争遺跡保存全国ネットワーク運営委員会が10月23日より4回開催され、今日の総会のあとは全国大会に向けて最後の詰めを行う大切な時期となる。

会報6月16日号にカラスに追われ銀杏並木を駆けていったタヌキの写真が掲載された。

会報9月6日号に夏休み見学会に参加した小学生の「夏休み新聞 地下壕見学」のコピーが掲載された。「平和のために地下壕を保存しみんなに昔のことを知ってもらう…」と。

同じ号に「参加者及び参加犬」の写真掲載。6月28日視力障害者と盲導犬が見学。当日の記事は『点字民報～視覚障害者と家族のための月刊誌～』8月号に掲載された。

7月23日久里浜通信学校歴史館を見学「九二式特受信機・改四」等機械を見学、実際に電文を打ったり、昔覚えたラッパの音を口ずさむと実演して下さったり、しばし楽しんだ。

9月12日初代会長の永戸多喜雄氏が永眠された。いつお会いしてもほのぼのと温かいものを感じられて、心が癒されるのだった。ご冥福をお祈りする。

10月16～17日 第18回横浜・川崎平和のための戦争展を来往舎で開催。テーマは「本土決戦体制とわが郷土」、シンポジウムには山田朗、愛沢伸雄、新井揆博、北原高子の各氏が参加。若者の発表は高校生の「なぜ人はハチマキを巻くのか？」と「新鶴見操車場と戦争」。期間中テーマにそった展示を行った。今回も戦争体験者の絵画を募集し展示した。

関連見学会は①10月2日明治大学平和教育登戸研究所資料館等の見学、

②10月31日房総半島の戦跡をめぐるバスツアー。

日吉をガイドする講座は第4回として11月6日、岸由二氏の「日吉の森の過去・現在・未来」の講演があった。日吉キャンパスの樹木は列島の危機の森のミニチュアでもあると。

第5回は12月18日都倉武之氏の「慶應義塾史における戦争」、慶應義塾は戦争とどのように向き合ったかを、さまざまな角度から考えるものであった。

日吉の戦争遺跡ガイド養成講座2010は「日本近現代史を学ぶ」と題し、2011年2月12日 藤山記念館で開催 第1回は渡辺賢二氏の「満州事変80年、あの戦争から何を学ぶか」

第2回として予定の3月12日の渡辺氏の講演は東日本大震災のため5月14日に延期。

第3回として予定の4月16日を第2回に繰り上げ、来往舎にて開催。新井揆博氏の「ガイドの心得」を聞き、フィールドワーク「日吉キャンパス周辺の戦争遺跡見学」に出発。

第3回に変更された渡辺賢二氏の講演会は5月14日「アジア太平洋戦争とは？～70年前に起こった戦争を考える～」と題して行われ、活発な質疑応答があった。

2011年3月3日冊子「フィールドワーク日吉・帝国海軍大地下壕」日吉台地下壕保存の会編 平和文化刊の改定版が刊行された。「海軍航空本部などの地下壕出入口の発掘調査成果について」8ページを挿入し、「日吉台地下壕保存の会について」等を割愛した。

2009年6月から始まった地下壕ガイド学習会は引続き開催し、①「ガイド事例集」をまとめること、②参考資料のリストアップと資料の保存用コピーの作成をめざして詰に入っている。

地震のあと地下壕見学会は安全確認のため学校側の要請により5月末まで中止となった。この間、慶應義塾では業者に委託し安全確認の調査を行い、報告書が作成された。安全は確認され、5月13日慶應関係の方々と保存の会運営委員が入坑したが、めだった変化は見られなかった。

日吉台地下壕保存の会

- ◆会員数:個人343名 9団体
- ◆定期総会開催:第22回 2010年5月29日
- ◆運営委員会開催:11回 2010.5.10～2011.5.23
- ◆会報発行:97号(6.16) 98号(9.6) 99号(12.22) 100号(2011.4.22) 101号(5.13)
- ◆地下壕見学会:50回 1796名(内小学生～大学生720名)5.11～2011.3.11
- ◆地下壕ガイド学習会 8回 5.5～2011.5.22
- ◆5.21～23「平和のための戦争展in よこはま2010」 県民サポートセンター。テーマ「見つめよう！語り合おう！戦争の過去と今・5月29日横浜大空襲から65年」展示参加。
- 2011.4.12「同展2011」実行委員会出席

- ◆6.19～21 戦争遺跡保存全国シンポジウム参加 第14回 南風原大会
「同第15回大会」運営委員会開催 4回 10.23～2011.3.24
- ◆6.26 2010年度三田史学会シンポジウムに参加 三田517番教室
- ◆7.3 映画「フェンス」藤原敏史監督上映会 来往舎 池子米軍家族住宅を囲むフェンス
- ◆7.5、7.12 日吉地区センター「わが町再発見 日吉台地下壕」学習会・見学会
11.8、11.15 同上 「同上」 同上 茂呂秀宏氏講師
- ◆7.23 久里浜通信学校歴史館見学 12名
- ◆8.12 戦時の体験を聞き平和を語る集い(平和・健康フェスタ実行委員会主催)に参加 書籍・資料展示など かながわ生協下田店
- ◆9.25 日吉フェスタ(ヒヨシエイジ主催) 日吉キャンパス テント展示参加
- ◆10.16～17「横浜・川崎平和のための戦争展」第18回開催 来往舎(10.15準備)
「同展」実行委員会 5回 4.21～9.29 法政二高
「同展」に向けて学習会・展示準備 8.18、10.9 日吉地区センター
同展「関連事業 <秋に戦争遺跡をめぐる>①明治大学平和教育登戸研究所資料館等見学 10.2、②房総半島の戦争遺跡をめぐるバスツアー10.31
- ◆11.6 日吉をガイドする講座第4回 岸由二氏「日吉の森の過去・現在・未来」藤山記念館大会議室
12.18 同上 第5回 都倉武之氏「慶應義塾史における戦争」来往舎
- ◆2011.2.12、5.14 ガイド養成講座 2010 日本近代史を学ぶ 講師渡辺賢二氏 藤山記念館大会議室
2011.4.16 同上 フィールドワーク日吉キャンパス周辺の戦争遺跡見学
- ◆2011.3.3『フィールドワーク日吉・帝国海軍大地下壕』平和文化 改訂増刷
- ◆2011.3.11 地震により見学会は5月末まで中止。5.13 関係者で入坑

2010年度 決算報告

2011年度予算

2010年度 決算報告

(単位 円)

| 費 目 | 2010年度予算 | 2010年度決算 | 備 考 |
|--------|-----------|-----------|---------------|
| 【収入の部】 | | | |
| 会 費 | 250,000 | 295,680 | |
| 見学会資料代 | 500,000 | 485,530 | 内訳別項 |
| 図書等頒布 | 0 | 40,920 | |
| 寄付金等 | 0 | 52,700 | |
| 繰越金 | 453,078 | 453,078 | |
| 計 | 1,203,078 | 1,327,908 | |
| 【支出の部】 | | | |
| 運 営 費 | 200,000 | 177,636 | 各種会合・打合せ等 |
| 事 務 費 | 100,000 | 90,701 | 事務用品費等 |
| 印 刷 費 | 80,000 | 77,340 | 会報・資料等 |
| 通 信 費 | 200,000 | 185,830 | 会報郵送費等 |
| 図書資料費 | 110,000 | 175,510 | 書籍・資料等 |
| 交流・交通費 | 200,000 | 168,330 | 全国集会・各平和展賛助金等 |
| 謝 礼 | 80,000 | 60,000 | 講演・学習・調査等 |
| 冊子作成費 | 0 | 0 | |
| 予 備 費 | 233,078 | | |
| 計 | 1,203,078 | 935,347 | |
| 差引残高 | | 392,561 | |

見学会開催費用内訳

| 収入の部 | 支出の部 | 保険料 | |
|-------|---------|--------|---------|
| 見学会費用 | 804,280 | 振込手数料 | 161,520 |
| | | 案内経費 | 2,730 |
| | | ※資料作成費 | 154,500 |
| 合計 | 804,280 | 合計 | 485,530 |
| | | | 804,280 |

※資料作成費は2010年度決算の見学会資料代に計上しています

以上の通り報告します

2011年6月4日

日吉台地下壕保存の会

会 計

亀岡 敦子

印

この報告により収支を監査したところ、適正に処理されていることを認めます。

会計監査

熊谷 紀子

印

会計監査

山口 園子

印

2011年度 予算(案)

(単位 円)

| 費 目 | 2011年度予算 | 備考 |
|--------|-----------|---------------|
| 【収入の部】 | | |
| 会 費 | 250,000 | |
| 見学会資料代 | 500,000 | |
| 図書等頒布 | 0 | |
| 寄付金等 | 0 | |
| 繰越金 | 392,561 | |
| 合 計 | 1,142,561 | |
| 【支出の部】 | | |
| 運 営 費 | 200,000 | 各種会合・打合せ等 |
| 事 務 費 | 100,000 | 事務用品費等 |
| 印 刷 費 | 80,000 | 会報・資料等 |
| 通 信 費 | 200,000 | 会報郵送費等 |
| 図書資料費 | 110,000 | 書籍・資料等 |
| 交流・交通費 | 150,000 | 全国集会・各平和展賛助金等 |
| 謝 礼 | 60,000 | 講演・学習・調査等 |
| 冊子作成費 | 0 | |
| 予 備 費 | 242,561 | |
| 合 計 | 1,142,561 | |

収入の部の会費は前年度実績をもとに計上しました

2011年6月11日

日吉台地下壕保存の会

運営委員会

2011年度運営委員・会長・副会長・会計監査・顧問(案)

| | | | | | | | | | |
|------|--------|-------------|--------|-------|-------|--|--|--|--|
| 会 長 | 大西 章 | | | | | | | | |
| 副会長 | 新井 揆博 | 都倉 武之(会長代行) | 鈴木 順二 | | | | | | |
| 運営委員 | 石橋 星志 | 岩崎 昭司 | 上野 美代子 | 岡上 そう | 亀岡 敦子 | | | | |
| | 喜田 美登里 | 桜井 準也 | 杉山 誠 | 鈴木 高智 | 谷藤 基夫 | | | | |
| | 常盤 義和 | 富澤 慎吾 | 中沢 正子 | 中谷 俊吾 | 長谷川 崇 | | | | |
| | 古川 晴彦 | 宮本 順子 | 茂呂 秀宏 | 山田 譲 | 山田淑子 | | | | |
| | 渡辺 清 | | | | | | | | |
| 会計監査 | 熊谷 紀子 | 山口 園子 | | | | | | | |
| 顧 問 | 鮫島 重俊 | 白井 厚 | 東郷 秀光 | | | | | | |

2011 年度活動方針

東日本大震災におかれまして、亡くなられた方々には心からご冥福をお祈りするとともに、被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

2011年3月11日以降に流れる被災地の映像は敗戦直後の写真と同じように色もなく、瓦礫がうず高く散乱した廃墟の風景でした。3か月後の今でも8千名を超える方々が行方不明です。そして、福島原発事故は戦後のエネルギー政策のほころびが出た人災です。現在でも対処療法的な対応しかできず、試行錯誤の連続で事故処理をしています。戦後高度成長期から続いている日本社会の概念に疑問符を付ける事件です。明治維新、アジア太平洋戦争の敗戦につぐ第3のリセットの時期に相当するような出来事です。我々は禍を最小化して、繰り返さない知恵をみんなで出し合い、それを継続的にすることがこれから試されるような気がします。戦後の平和教育や戦争遺跡保存運動にも通じるところです。

日吉台地下壕保存の会は発足以来 24 年目になります。この間保存会会員の方々、全国戦争遺跡保存運動に携わっている方々、日吉地域住民の方々と一緒に活動が続けることが出来ました。

昨年度は「三田史学会」で基調講演をし、また神奈川県から「かながわボランティア活動奨励賞」を頂きました。20 年以上地道に続けている活動が認められはじめました。小さな活動でも継続的にやると大きな力になる証だと思います。

今年度はこの日常的な見学会などの活動を基本とし、8月に「第15回戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川県横浜大会」を開催します。より多くの方々と出会い、語り合い、運動を一緒に進めたいと思います。

そのために以下の活動方針を提案致します。

活動方針

- 『日吉平和ミュージアム』の建設に向けて努力する。
- 戦争遺跡指定の早期実現を文化庁に働きかける。
- 日吉台地下壕見学会の内容を充実させる。
- 小・中・高校生のための見学会を開催していく。
- 『ガイド養成講座』を充実させ、ガイドの輪を広げていく。
- 日吉台地下壕の学術調査・研究及び学習会を開催する。
- 慶應義塾・横浜市・県・国への働きかけを港北区住民の方を始めとする地域の方々と連帯して行う。
- 全国の戦争遺跡保存運動の会との連携を深め、保存運動を盛り上げていく。
- 運営委員会の活動の充実と拡大強化をはかる。

お知らせ

今年の8月6・7・8日に戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川県横浜大会が慶應義塾大学日吉キャンパスで開催されます。日常の保存運動の活動報告等の他にも記念講演として澤地久枝氏をお招きしています。澤地氏には『いま考えること』の題目で、混迷している現在の社会の状況を語ってもらう予定です。是非参加をお願いします。分科会発表・見学会は事前申し込み制ですが記念講演などは当日参加することも可能です。お時間がある方は気軽においで下さい。詳しくは以下の要項を参考にして下さい。

第15回戦争遺跡保存全国シンポジウム 神奈川県横浜大会要項

大会テーマ『戦争遺跡を平和のための文化財に！』

1. 主催・後援

【主催】戦争遺跡保存全国ネットワーク

第15回戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川県横浜大会実行委員会

【後援】港北区・慶應義塾・神奈川新聞社・朝日新聞社・読売新聞社・毎日新聞社

(すべて申請中)

2. 趣旨

2011年の戦争遺跡保存全国ネットワークの大会は、神奈川県横浜市日吉の慶應義塾大学で開催されます。日吉台にはアジア太平洋戦争末期に軍令部第三部、連合艦隊司令部など海軍の中枢部が移転し、2600メートルに及ぶ大地下壕が掘られ、レイテ沖海戦や沖縄戦（特に戦艦大和の海上特攻など）を指令、本土決戦に向けて海軍総隊の司令部が設置されて作戦が立てられました。今でもその痕跡はいっぱい残っています。その遺跡の文化財としての保存を求めて日吉台地下壕保存の会が長きにわたって活動してきました。そして川崎市の明治大学生田キャンパスに遺る陸軍登戸研究所の保存を求める会や蟹ヶ谷地下壕保存の会と一緒に毎年、『平和のための戦争展』を開催し、これらの戦争遺跡の保存を訴えてきました。

昨年、陸軍登戸研究所については明治大学が戦争中に生物・化学兵器を開発していた鉄筋の建物をそのまま保存し、明治大学平和教育登戸研究所資料館として開館し、既に1万名を超す参観者が訪れています。慶應義塾大学も自ら地下壕の調査をおこない、保存に向けた動きもはじめています。保存の会が案内する日吉台地下壕も年間約3千名が訪れています。

現在、文化庁が調査している戦争遺跡にも含まれるこうした遺跡が保存される動きは極めて重要であり、それぞれの大学や関係者に敬意を表したいと思います。同時にこうした遺跡は戦争の本質を考える上で極めて重要なもので地域の文化財として市民が積極的に関わって保存と活用をはかるべきものでもあります。

私たちはそうした立場から大会のテーマに『戦争遺跡を平和のための文化財に！』というスローガンを掲げました。全国の皆さんと一緒に平和のために戦争遺跡を保存し、活用する意義を深めると同時に資料館などを設置し平和教育を推進できる場を各地につくる運動を展開したいと思います。

3. 日程 2011年8月6日(土)～8日(月)

(停電・交通手段の変更等のため全体の日程時間に変更されることがあります)

【2011年8月6日(土)】

- 9:00~10:30 【見学会 A-1】 慶應日吉キャンパス連合艦隊司令部地下壕
10:30 会員受付開始(来往舎大会議室)
11:00~12:00 全国ネット会員総会(来往舎大会議室)
12:30 開会集会 受付開始(協生館藤原洋記念ホール)
13:00 第1部 (司会:戦跡保存全国ネット・現地実行委員会)
主催者挨拶(戦跡保存全国ネット)
歓迎の挨拶(慶應義塾)
来賓挨拶(神奈川県・横浜市・慶應義塾など)
13:15 第2部 記念講演と歓迎アトラクション (司会:現地実行委員会)
歓迎アトラクション 『二人三番叟』ひとみ座乙女文楽
記念講演 澤地久枝 『いま考えること』
休憩
15:15 第3部 戦争とその遺跡
基調報告『戦争遺跡を平和のための文化財に!』
十菱駿武(戦跡保存全国ネット代表)
戦時下の慶應義塾と戦争遺跡 白井厚(慶應義塾大学名誉教授)
明治大学平和教育登戸研究所資料館 渡辺賢二(登戸研究所保存の会代表世話人)
沖縄における「戦跡確認調査」 村上有慶(戦跡保存全国ネット代表)
16:30 閉会の挨拶
分科会の打ち合わせ
17:30 全国交流集会(慶應義塾生協食堂)(司会:現地実行委員会)
挨拶 戦跡保存全国ネット代表
各地域からの発言
第16回大会開催地の紹介ならびに挨拶
19:30 閉会の挨拶(現地実行委員会)

【8月7日(日)】(来往舎)

- 9:00~12:00 分科会①
13:00~15:30 分科会②
会場 第1分科会 来往舎シンポジウムスペース
第2分科会 来往舎大会議室
第3分科会 来往舎中会議室
16:00 閉会集会 (来往舎シンポジウムスペース)
開会の言葉(全国ネット事務局)
各分科会からの報告
大会アピール
17:00 閉会の挨拶(現地実行委員会)

【8月8日(月)】

見学会 (詳細は12・13ページ参照)

- A-2・3 日吉台地下壕 (午前・午後各1回)
B-1・2 明治大学平和教育登戸研究所資料館 (午前・午後各1回)
C 貝山地下壕・海軍航空技術廠跡・野島掩体壕予定
D 横須賀軍港・猿島要塞など
A-2とB-2及びB-1とA-3は移動して両見学会は可能です。

【企画写真展示】 8月2日(火)~7日(日) 来往舎イベントテラス

【資料(書籍)交換会】 8月6日(土)~7日(日) 来往舎イベントテラス

4. 会場

来往舎シンポジウムスペース： 第1分科会、閉会集会
来往舎大会議室： 全国ネット会員総会、第2分科会
来往舎中会議室： 第3分科会
来往舎イベントテラス： 企画写真展示、資料(書籍)交換会
協生館藤原洋記念ホール： 開会集会、記念講演
生協食堂ホール： 全国交流会

5. 資料代(参加費)

一 般 2,000 円 (1 日参加者は 1,000 円)
大学(院)生 1,000 円 (1 日参加者は 500 円)
高校生以下は無料
宿泊の斡旋はしません (各自で予約をお願いします)
昼食 6 日(土)・7 日(日)は生協食堂が開いています。
役員の方々は両日ともお弁当をご用意します。

6. 分科会

第1分科会 「保存運動の現状と課題」
第2分科会 「調査の方法と整備技術」
第3分科会 「平和博物館と次世代への継承」

7. 交流会 (8 月 6 日 17:30~19:30)

参加費：3,500 円
場 所：生協食堂ホール

8. 第15回戦争遺跡保存全国シンポジウム現地実行委員会組織

実行委員長 大西 章 (日吉台地下壕保存の会会長)
副委員長 都倉武之 (日吉台地下壕保存の会会長代行・
慶應義塾福澤研究センター専任講師)
副委員長 新井揆博 (蟹ヶ谷地下壕保存の会代表)
副委員長 渡辺賢二 (明治大学講師・登戸研究所保存の会代表世話人)
副委員長 姫田光義 (中央大学名誉教授・登戸研究所保存の会代表世話人)
事務局長 亀岡敦子 (日吉台地下壕保存の会運営委員)
事務局次長 森田忠正 (登戸研究所保存の会事務局長)
顧 問 白井 厚 (慶應義塾大学名誉教授)
顧 問 水野次郎 (神奈川トラストみどり財団運営委員会会長)
日吉台地下壕保存の会会員
蟹ヶ谷地下壕保存の会有志
登戸研究所保存の会有志
貝山地下壕保存の会有志

9. 参加案内 (詳細は別紙)

事前申込が必要です。申込締切 7 月 20 日
費用は事前に郵便振込 (締切 7 月 20 日) をお願いします。
申込先 第15回戦争遺跡保存全国実行委員会 亀岡敦子
〒223-0064 横浜市港北区下田町 5-20-15 Tel&fax045-561-2758
メール atsuko.k@kfz.biglobe.ne.jp

郵便振込口座番号 00250-5-135104

加入者名 第15回戦争遺跡保存全国実行委員会

10. 分科会レポート発表案内(詳細は別紙)

分科会レポート 発表申込締切 6月30日

発表者は全国ネットの個人会員か団体会員の方に限ります。(所属団体が加盟会員であれば可能です。未会員の個人はすぐに登録して下さい。)

レポート原稿締切 7月10日 大会資料集に掲載します

申込先: 戦争遺跡保存全国ネットワーク事務局

〒380-0928 長野市若里 3-5-5

きぼうの家 松代大本営の保存をすすめる会気付

Tel&fax026-228-8415 メール kibonoie@nifty.com

11. 戦争遺跡見学会案内(詳細は12・13ページ参照)

- ・すべてのコース事前予約が必要です。
- ・定員を設定しているコースもあります(原則先着順)
- ・費用は郵便振込で事前にお願ひします

コース

○6日(土)

A-1 日吉台地下壕(短縮コース)

○8日(月)

A-2・A-3 日吉台地下壕(午前・午後各1回)

B-1・B-2 明治大学平和教育登戸研究所資料館(午前・午後各1回)

C 貝山地下壕・海軍航空技術廠跡・野島掩体壕(予定)

D 横須賀軍港・猿島要塞など

A-2とB-2及びB-1とA-3は移動して両見学会は可能です。

12. 慶應義塾日吉キャンパス

案内及びアクセスは14ページをご覧ください。

なお、キャンパス内には駐車場がありません。

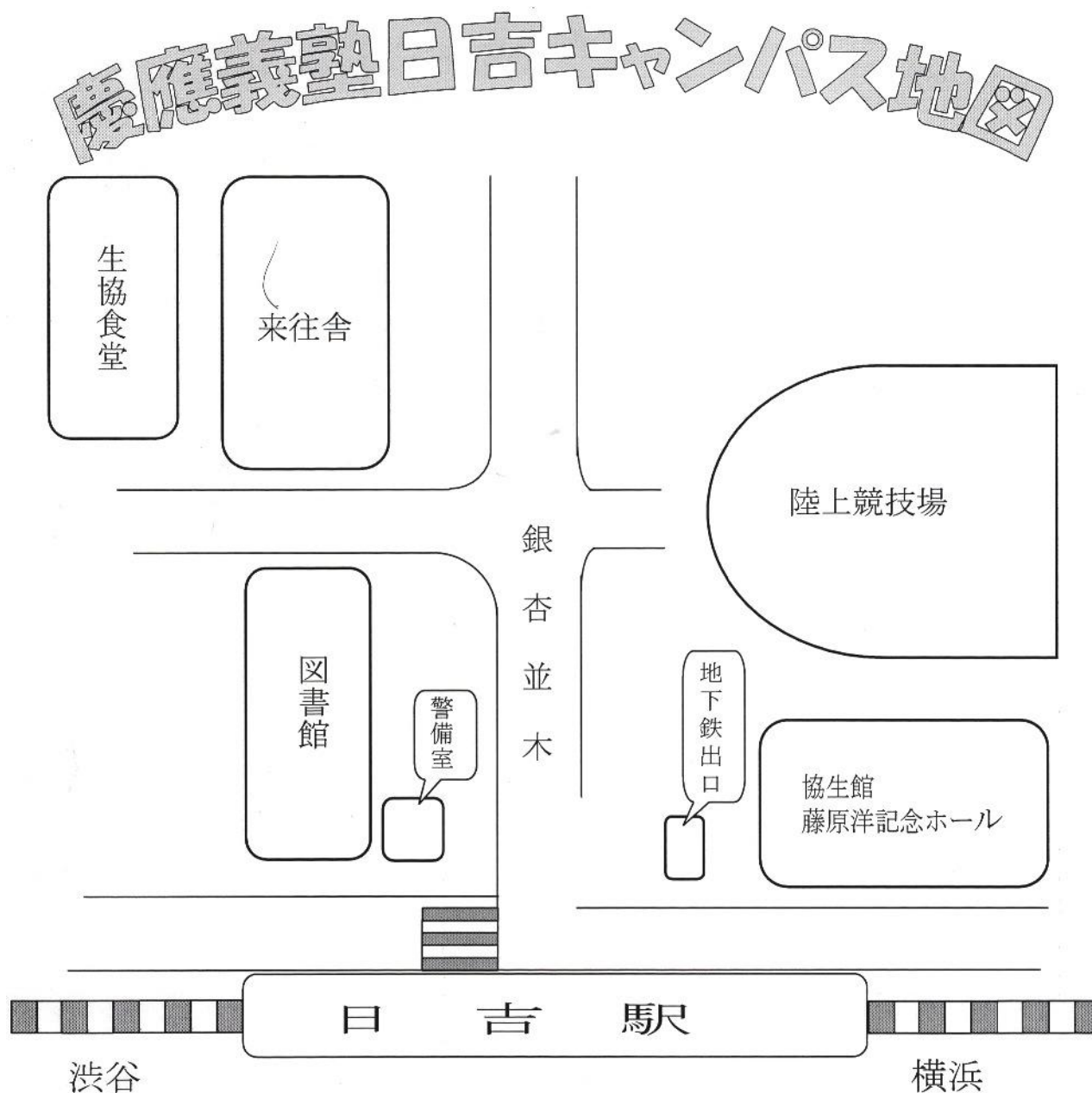
戦争遺跡見学会案内

| | |
|---------|---|
| 名称 | A 海軍連合艦隊司令部地下壕（慶応大学日吉キャンパス構内） |
| 集合場所 | 東急東横線日吉駅改札口前広場 銀の球前 |
| 集合時間 | A-1 8月6日(土)（短縮コース）9時～10時30分 A-2 8月8日(月) 9時～11時30分 A-3 14時～16時30分 |
| 見学コース紹介 | A-1 日吉駅⇒慶応大学来往舎⇒連合艦隊司令部地下壕⇒来往舎 A-2・A-3 日吉駅⇒慶応大学来往舎⇒高校校舎⇒連合艦隊司令部地下壕⇒ チャペル⇒耐弾式堅穴坑・弥生時代住居跡⇒寄宿舍（元連合艦隊司令部） |
| 用意するもの | 懐中電灯(必携)・歩きやすい靴（スニーカーなど） |
| 参加費用 | 800円（保険料・資料代） 小・中・高生は300円、参加は小学4年生から |
| 当日連絡先 | 喜田美登里 携帯090-2907-6412 |
| 備考 | 定員：各コース先着40名 事前予約なしには参加できません。 キャンセルは7月31日まで A-2コース終了後、B-2コースへの移動は可能です |

| | |
|---------------------------|---|
| 名称 | B 明治大学平和教育登戸研究所資料館と大学構内の戦争遺跡見学 |
| B-1 8月8日(月) 集合場所・時間 | ①9時45分小田急線「生田」駅改札口（1ヵ所だけ）集合、徒歩約10分 ②10時「明治大学正門前」（小田急線「向ヶ丘遊園」駅北口下車駅前のバス乗り場3番「明治大学正門前」行き乗車、約17分 ※8時50分、または9時31分に乗車してください（3/17時刻表） ①または②のどちらかに集合してください。約2時間を予定しています。 |
| B-2 8月8日(月) 集合時間・場所 | ①13時45分小田急線「生田」駅改札口（1ヵ所だけ）集合、徒歩約10分 ②14時「明治大学正門前」（小田急線「向ヶ丘遊園」駅北口下車駅前のバス乗り場3番「明治大学正門前」行き乗車、約17分 ※13時17分、または13時38分に乗車してください（3/17時刻表） ①または②のどちらかに集合してください。約2時間を予定しています。 |
| 見学コース紹介 | 明治大学平和教育登戸研究所資料館見学（学芸員の説明）とDVD「蘇る登戸研究所」の視聴→大学構内の戦争遺跡見学36号棟（資料館の建物）→弾薬庫→陸軍の☆のマークがついた消火栓→弥心神社（やごころ神社）→偽札を印刷・製造していた木造建物跡（今年2月解体）→陸軍の☆のマークがついた消火栓→ヒマラヤ杉・登戸研究所本部があった場所→動物慰霊碑 （参加人数等により、順序は変更します。） |
| 用意するもの | 特にありません |
| 参加費用 | 800円（冊子『フィールドワーク旧陸軍登戸研究所』つき） |
| 当日連絡先 | 森田忠正 携帯090-2221-4852 |
| 備考 | 大学内の食堂は利用可能です。 B-1コース終了後、A-3コースへの移動は可能です。 |

| | |
|---------|---|
| 名称 | C 貝山地下壕・海軍航空技術廠本庁舎跡地・野島掩体壕・(伊藤博文別荘) |
| 集合場所・時間 | 8月8日(月)9時45分～15時 京浜急行追浜駅改札口 (10時発 バス乗車のため時間厳守)。 |
| 見学コース | 京急バス乗車→ナブコバス停車→貝山地下壕→海軍航空技術廠跡地→追浜駅12時20分(ここで帰宅も可)→金沢八景駅→シーサイドライン金沢八景駅→海の公園柴口駅→金沢園(登録有形文化財)で昼食(予約制)→野島掩体壕周辺→京急金沢八景駅解散(15時予定) |
| 見学内容の紹介 | 貝山地下壕も野島掩体壕も貝山地下壕保存の会が保存運動に係わった戦跡です。 貝山地下壕周辺は横須賀(追浜)海軍航空隊と航空技術廠と一体で、海軍の航空機とその兵器の開発研究実験の中枢であった。野島掩体壕は野島山を貫通した巨大な掩体壕。 |
| 用意するもの | 懐中電灯(必携)・歩きやすい靴・帽子・軍手 |
| 参加費用 | 1350円(資料代・昼食代) 別途当日交通費約1500円掛ります 300円(貝山地下壕周辺のみでお帰りの方) |
| 当日の連絡先 | 原田弓子 携帯090-7004-6090 |
| 備考 | 横浜⇒追浜 京浜急行(300円) 各停約50分、快速特急約25分 |

| | |
|---------|---|
| 名称 | D 横須賀軍港・猿島要塞跡 |
| 集合場所・時間 | 8月8日(月)10時30分 京浜急行汐入駅改札口前 15時55分 横須賀市三笠桟橋で解散 |
| 見学コース | ①軍港めぐりクルーズ(観光案内船利用) 10時30分 現地事前説明(山田譲) 11時 出港 11時45分 帰港 近くで昼食後、路線バスで移動(途中で米海軍正門前を通過) ②猿島要塞跡見学(ガイド新井揆博) 13時30分 三笠桟橋出港(乗船10分) 15時45分 猿島出港 15時55分 三笠桟橋到着・解散(戦艦三笠自由見学可) バスまたは徒歩で京浜急行・横須賀中央駅 |
| 見学内容の紹介 | ①横須賀軍港＝米海軍・海上自衛隊の艦船・燃料弾薬基地、自衛隊横須賀地方総監部(旧横須賀鎮守府) ②猿島要塞跡＝明治時代のフランス積みレンガのトンネル、昭和期の砲台跡 |
| 用意するもの | 歩きやすい靴、飲み物、日よけ帽子、タオル(猿島は暑いので注意) |
| 参加費用 | 2500円(交通費込み) 雨天決行、荒天中止。 |
| 当日連絡先 | 山田譲 090-8584-7886 |
| 備考 | 出港時間変更の可能性あり |



○アクセス 日吉駅下車 0 分
 東急東横線 日吉駅下車 (特急は停車しません)
 日吉⇒横浜 急行 12 分・各停 19 分
 日吉⇒渋谷 急行 18 分・各停 26 分
 横浜市営地下鉄グリーンライン 日吉駅下車

○会場
 8 月 6 日(土) 基調報告・記念講演 協生館藤原洋記念ホール
 8 月 7 日(日) 分科会 来往舎シンポジウムスペース・大会議室・中会議室
 ○駐車場はありませんので公共交通機関をご利用下さい。

報告

大倉精神文化研究所と日吉台地下壕保存の会の合同聞き取り
―戦後日吉寮は大倉山に―

運営委員 亀岡敦子

晴天の4月26日、日吉台地下壕保存の会の運営委員6名は、大倉精神文化研究所との合同聞き取り調査のため、日吉駅から2駅横浜よりの大倉山駅に隣接する小高い丘の上にのぼった。初夏の陽ざしのなか白亜のギリシア神殿風の大倉山記念館は、輝くような新緑と花水木の白い花とチューリップに彩られていた。聞き手としては2グループのほかに、中央大学と慶應義塾大学からもそれぞれの大学史研究者が参加した。この4者の共通点はどこにあるのか、そして誰から、何について聞き取りしたのか。それが、意外な興味深い共通点があったのだ。



大倉精神文化研究所玄関前

大倉精神文化研究所本館は1932年、晩年東洋大学学長もつとめた実業家大倉邦彦が西洋と東洋の融合を目指して建てた研究施設であるが、1944年4月から敗戦まで海軍気象部が使用したため、研究所は木造2階建ての富嶽荘という附属宿泊施設に移転した。その富嶽荘を1946年6～7月から48年11～12月まで慶應義塾が寮として借りており、寮生20～30人がここに起居していたのだ。その珍しい体験をもつのは日吉寮OBの中でも、ごく限られた方々であろう。幸いにも45年慶應義塾大学経済学部予科入学の芹澤宏・竹田行之両氏が、その貴重な体験を話してくださることとなり、それが今回の聞き取り調査であった。

日吉寮は1944年夏から敗戦までの1年間は海軍が連合艦隊司令部をおき、敗戦直後の9月から4年間はアメリカ進駐軍が下級将校の家族寮として接收した。私たちは寮の建物には関心をはらい、研究をしていたけれど、寄宿舎から追い出された寮生が、どこで起居、どんな学生生活を送っていたのか、うかつにも調査したことはなかった。

大倉山での物資の少ない時代の寮生活や、空襲で家を失ったのか長谷川如是閑（戦前の代表的ジャーナリスト、中央大学卒業）が研究所職員住宅に一時期住んでおり、直接講演を依頼して寮の食堂で聞いたこと、研究所主催の講演後の高橋誠一郎も食堂で特別に話をしてくれたこと、また大倉山以前は日吉本町にあった野球部合宿所が寮として使われていたことなど、みなはじめて聞く貴重な話ばかりであった。日吉寮の戦後史については、芹澤・竹田両氏に全面協力いただいて、明らかにしたいものだと、熱望している。

お知らせ

会費納入のお願い

2011年度会費の納入をお願いいたします。年会費は1口千円(1口以上)で、同封の赤振込み用紙でご送金ください。

なお、すでに2011年度の会費をお支払い済みの方や、2011年度入会の方には振込用紙を同封しておりません。また2010年度までの未納分につきましても、請求させていただきましたが、こちらの手違いで失礼があるかもしれません。疑問点がございましたら、お手数ですが会計担当までお問合せください。

活動の記録

(2011年4月～6月)

- 4/22 運営委員会 会報100号発送(慶応高校物理教室)
 4/23 地下壕ガイド学習会(菊名フラット)
 4/25 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会(かながわ県民センター)
 4/26 聞き取りの会(大倉精神文化研究所)
 5/11 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会(かながわ県民センター)
 5/13 地下壕の点検(6月からの見学会再開決定)
 会報101号発送(慶応高校物理教室)
 5/14 日吉の戦争遺跡ガイド養成講座(藤山記念館大会議室)
 5/22 地下壕ガイド学習会(菊名フラット)
 5/23 運営委員会(慶応高校物理教室)
 5/24 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会(かながわ県民センター)
 5/29～6/5 平和のための戦争展 in よこはま 参加者1500名
 (かながわ県民センター ホール・展示場)
 5/29講演会 6/1展示準備 6/2～5展示 6/5講演会
 5/31 地下壕見学会 慶応大学人文科学特講(安藤先生)22名
 6/11 日吉台地下壕保存の会2011年度総会(藤山記念館大会議室)
 6/13 地下壕見学会 青葉区さつきが丘コミュニティハウス 15名
 第15回全国シンポジウム実行委員会(慶応高校物理教室)

予定

- 6/18 日吉の戦争遺跡ガイド養成講座 日吉の戦争遺跡の特徴とガイドの心得Ⅱ・箕輪町周辺の戦争遺跡見学
 6/20 運営委員会 会報102号発送(慶応高校物理教室)

☆ 地下壕見学会

定例見学会(毎月第4土曜日13時～) 6/25 ・ 7/23 ・ 9/24
 10/22 (8月はありません)
 夏休み見学会 13時～ 7/30(土)・ 8/2(火) 10時～ 8/4(木)
 全国ネットシンポジウムのフィールドワーク 8/6 ・ 8/8 (詳細は要項をご覧ください)

☆地下壕見学会は予約申込が必要です。

お問い合わせは見学会窓口まで TEL045-562-0443(喜田 午前・夜間)

連絡先(会計) 亀岡敦子:〒223-0064 横浜市港北区下田町 5-20-15 TEL 045-561-2758

(見学会・その他) 喜田美登里:横浜市港北区下田町 2-1-33 TEL 045-562-0443

ホームページ・アドレス: <http://hiyoshidai-chikagou.net/>

日吉台地下壕保存の会会報 (年会費) 一口千円以上
 発行 日吉台地下壕保存の会 郵便振込口座番号 00250-2-74921
 代表 大西章 (加入者名) 日吉台地下壕保存の会
 日吉台地下壕保存の会運営委員会